



Shinkoh News

— 川口新郷工業団地協同組合 —



SIP川口

2014 JAN. vol.82

発行日 / 平成 26 年 1 月 21 日 発行 / 川口新郷工業団地協同組合 発行責任者 / 石川義明 編集責任者 / 矢野 剛



川口新郷工業団地協同組合
理事長 石川 義明

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また日頃より組合運営に對しましてご理解ご協力を賜りまして深く御礼申し上げます。

さて、昨年安倍政権による経済政策（アベノミクス）で生じた円安、それに伴う自動車等の輸出増加、今年4月の消費税率引き上げを前にした駆け込み需要、震災復興やオリンピックによる建設需要の高まり、それに伴う関連産業への波及などで、景気は前年から大幅に改善されました。

また景気の動向調査でも、今年の景気も引き続き「回復」が「悪化」を上回っており、総じて景気の方角感改善傾向にあるという結果がうかがえます。

しかし、今年の景気見通しは、消費税増税にともなう反動減に対する懸念が非常に強く、慎重な見方が増えており、増税や円安を通じた原材料価格の上昇に懸念を抱いている企業が多いのも実情です。政府には個人消費拡大策や所得増加策、法人向け減税、個人向け減税など、景気の腰折れを防ぐ対策として、我々中小企業に十分配慮した予算の編成をスピード感を持って決定し、実行に移していく事が求められております。

また、昨年2月、東京電力株式会社の電気料金値上げは、我々中小企業に多大なる影響を与えております。加えて東京電力管内の原子力発電所の全面停止、円安による発電燃料の高騰、再生可能エネルギーの急激な普及による負担金額の増加など更なる電気料金の値上げや電力供給の不安定化が予想されます。当組合ではその対策として、一昨年来、太陽光発電設備並びに自家発電システムの導入を検討する会議を設置し検討を続けております。一方、地域コミュニティの推進を目的とした「ばんばん祭」は、年を重ねるごとに参加人員も増え、今年第8回目を迎えます。

また、当組合は、産業振興の担い手となる人材育成、経済成長を支える中小企業の優れた技術や知識を習得させるため、この度近隣国からの「技能実習生」受け入れを中国四川省に加え、東北部の工業都市大連市より受入れるために「大連奔騰国際経済技術合作有限公司」と調印を行なったところ。工業化の進んだ大連からの技能実習生は、組合員の皆様の人材の確保と事業の安定化に寄与するものと思っております。

これからも「ものづくり」を続けるために、それを支える地域との共生を図り、「住工共生の都市型工業団地」として共に歩んでいきたいと思っております。

今年も組合員の皆様のお役に立つ組合をめざし役員一同組合事業を運営してまいります。組合員の皆様におかれましては組合事業に積極的にご参加賜りたくお願い申し上げます。

結びに、今年が川口新郷工業団地協同組合組合員並びにご家族の皆様にとりまして心身ともに健全で希望に満ちた実り多き年になりますよう祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



総務大臣 衆議院議員
新藤 義孝

新年明けましておめでとうございます。

新郷工業団地協同組合の皆様には、石川理事長をはじめ長年にわたり大変お世話になっております。おかげさまで総務大臣を拝命してから丸一年が経ち、日々目が回るような忙しさの中で過ごしております。長い間お支えいただいている皆様からは、本当にたくさんの激励・応援を頂戴しております。日本経済再生のためのアベノミクスと呼ばれる金融緩和・財政出動・成長戦略の三本の矢は確実に成果を上げてきています。この一年で、株価は8000円台から15000円台に、為替は1ドル約80円から100円台に推移し、GDPは2.5%の成長が見込まれております。しかし地元川口はもとより、全国各地で聞く声は、本格的な景気回復に向け兆しは見えるが、まだ道半ばというものが圧倒的です。

今、安倍政権が取り組むべきは、民間投資を喚起する経済成長戦略の実行であり、何より「スピードと実践」が重要です。そして、景気回復の実感を全国津々浦々にまで届けるためには、それぞれの地域に合わせた経済活性化策が必要となります。大都市から農村漁村まで、様々な「地域の元気」をつくり、それらの塊で「日本の元気」をつくりたい。こうした観点から私は大臣就任以来「地域の活性化」、「イノベーションの創出」、「国際展開」の3つを基軸に取り組んでまいりました。地域の個性を活かし自立を促進するため「地域の元気創造プラン」の策定・事業の推進、ICT技術を活かした新製品の開発の促進、そして日本がもつ高い技術を政府全体でサポートし、国際展開へ向け全力で取り組んでいるところであります。

私たち自民党の衆議院選挙のスローガンであり、安倍内閣の目標は「日本を、取り戻す。」です。地元の皆様から頂戴しておりますご厚情に応えるためにも、私は地域の元気を応援する総務大臣の役目をしっかりと果たして参りたいと存じます。

川口新郷工業団地協同組合の益々の発展を期待すると共に、関係各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



おめでとうございます

☆長寿のお祝い

古希

◇株式会社大西鑄工所



大西 壯三郎様

◇タナカエステート株式会社



田中 章夫様

◇有限会社徳山製作所



徳山 信重様



平成25年の視察研修旅行は世界遺産に登録された「富士山」を見に行こう!ということで気合をいれて企画をいたしました。新幹線の車窓から、日本平から、三保の松原から、駿河湾フェリーで洋上からと、いろいろな場所から素晴らしい富士山の雄姿を堪能するはずでした。がしかし、生憎の雨、雨、雨。

それでも、仲の良い仲間と、グラスの底に富士の姿を思い浮かべ飲む酒はまた格別でした。今回の旅行が厄祓いとなり、きっと今年は良い事がありますように。(T・Y)

SIP 川口 2013 この一年



平成二十五年。
二〇一三年は、主要先進国で景気回復の機運が高まる一方で、政治・外交のリスクや新興国経済の足踏みが意識され、不安定感が際立つ一年でした。
しかし、夏季東京オリンピック・パラリンピック開催決定や、「富士山」と「和食」の世界文化遺産登録に湧き、政府の大型復興予算と日銀による大規模な量的緩和による円安というアベノミクス効果や、米国の景気回復による輸出増が見込まれるなど、堅調なる景気回復が期待される年でもありました。
SIP川口はこの年、当組合の憲法と言え「定款」の改定、苦渋の電気料金値上げ、組合独自のエネルギー対策検討、住工共生の「ばんばん祭」や、「南三陸町歌津地区支援」の継続など厳しい財政下で、元気に頑張っていました。
これは昨年の各事業の記録です。

新春祝賀会 1月25日(金)

新春祝賀会(新工会館・77名参加)が盛大に開催されました。
恒例の長寿のお祝い、永年優良従業員の表彰、来賓として新藤総務大臣、岡村川口市長、板橋市議会議員、奥の木県議会議員にご祝辞をいただきました。アシスタントとしてミス・ユニバース・ジャパン埼玉大会グランプリの筒井菜月さんが花を添えました。
余興として、餅つき、獅子舞、テーブルマジック、浅草の若手芸人が出演し、楽しいひと時を過ごしました。



臨時総会開催 2月26日(火)

臨時総会 66名出席
中小企業等協同組合法の改正により、当組合の定款見直しが必要となりました。新工会館にて定款改定の臨時総会を開催し、全議案原案通り可決承認されました。



手打ちそばの会

キュポ・ラ市場に出店
3月10日(日)
4月14日(日)

当組合手打ちそばの会の評判を聞いた川口市観光物産協会の依頼で「キュポ・ラ市場」へ出店しました。
聞き慣れない煙霧など悪天候の中でしたが、岡村川口市長も来店され大変好評でした。
なお、売上は南三陸町歌津地区への義援金として寄付いたしました。



創立50周年記念モノキュメント制作の 請負契約締結 3月27日(水)



組合の創立50周年記念事業で、組合のシンボルとなるモノキュメントの制作を横浜美術大学学長の春山文典氏に依頼し、この日契約しました。
また、11月に中間報告としてモノキュメントの形状、大きさ等のラフスケッチが提出されました。

第44期通常総会 5月29日(水)



(新工会館 組合員70名の出席)
全議案原案通り可決承認されました。
また今期は役員改選の年であり、役員選挙により理事13名が再任され、新理事4名と新監事2名が就任しました。
理事長は満場一致で石川義明氏が再選されました。

第七回ばんばん祭 8月25日(日)

近隣三町会、川口市観光物産協会、川口法人会第四支部と共催する「ばんばん祭」も七回目。地元川口の夏のお祭りとしてすっかり定着し、今回の参加者約七千人と年々盛況になっています。
前回に引き続き、宮城県南三陸町の歌津地区の皆様も参加され、物販の販売を行いました。また今回も「顔の見える長期の支援」として義援金を贈らせていただきました。千葉県銚子市からの出展、模擬店、各種ゲーム、踊りやコンサート等、住工共生の理念の下、大きな成果を上げました。



市長のふれあい訪問 5月2日(木)



目立たないとこそ一生涯懸命頑張っている当組合の活動状況を多くの市民に知ってもらいたい、と岡村川口市長にお越しいただきました。
特に電力の共同購入でコストを減らす「共同受配電事業」や「住工共生を目指す」ばばん祭」の開催、また「電力の自給にも積極的に取り組む活動」など三役、総務、電力各委員長と懇談しました。

上田清司埼玉県知事と同行(アセアン訪問団) 8月20日(火)〜22日(木)



県内中小企業のアセアン進出支援に向けた現地政府との協力関係並びに地域の発展に向け交流促進に取り組んでいくことを構築するため、ベトナム・タイ政府と「経済交流に関する覚書」締結に立会しました。また現地進出企業を視察し、意見交換を行いました。
交流会は、現地の政府要人、進出企業、日系要人などで、ベトナムでは110人、タイでは100人の参加。



ものづくり経営革新in川口

8月26日(月)



埼玉産業人クラブは、川口商工会議所で経済講演会を開催、講師として石川義明理事長(石川金屬機工株式会社社長)が「人と組織の活性化」をテーマに講演しました。地域の一体感を醸成するために始めたお祭り「ばんばん祭」での地域交流など、次世代型工業団地を目指すべきと1時間熱弁し、参加した100人の会員らは熱心に耳を傾けていました。

川口商工会議所との合同公演会(活弁)

9月4日(水)



川口商工会議所合同開催の活弁士麻生八咫氏を招き、「見て聴いて体験する活弁の世界」をテーマに講演会を行いました。組合員や近隣三町会の方々など59名が「国定忠治」や「チャップリン」などの映像を鑑賞しながら活弁を楽しみました。

定期健康診断・胃検診実施
インフルエンザ予防接種

9月4日(水)
10月31日(木)



組合員並びに組合従業員の健康増進を図るため、戸田中央総合健康管理センターから新工会館へ派遣、定期健康診断や胃検診等を実施しました。定期健診208名、有機溶剤20名、塵肺検診26名、胃検診53名が受診しました。インフルエンザ共同予防接種は、組合員並びに組合従業員合わせて212名が接種しました。

第二十九回ボウリング大会

9月6日(金)

南平グランドボールにて参加者19チーム・76名で実施されました。石川義明理事長の挨拶・始球式のあと2ゲームの熱戦を繰り上げました。上位成績は次の通り。



団体賞(敬称略)		個人賞(敬称略)	
優勝	テクノス正規軍	優勝	須賀健一
準優勝	モリチュウA	準優勝	江原敏夫
三位	中原建設A	三位	村山弘

中小企業団体全国大会

10月24日(木)～25日(金)



第65回全国大会は、滋賀県大津市の滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールで開催されました。大会席上、当組合の石川義明理事長は、長年にわたり中小企業団体の育成強化に尽力された功績により「組合功労者」として表彰されました。

議題

- ① 実感ある景気回復と経済成長の実現
- ② 中小企業の活動強化

石川義明理事長夫妻
秋の園遊会へ招待される

10月31日(木)



さわやかな秋晴れとなった東京・赤坂御苑で、当組合理事長夫妻並びに各界の功績者などが天皇・皇后両陛下に招待されました。石川理事長「一生の宝となる貴重なひとときでした。」一長島茂雄、中村吉衛門、三浦雄一郎、由紀さおりさんら出席

市制施行80周年記念式典

11月10日(日)



- 産業・経済功労表彰(勤続35年以上含む) 23人
- 川口市表彰1人
- 行政功労表彰1人
- 教育・文化・スポーツ功労表彰1人

昭和8年4月1日、1町3村が合併して誕生した川口市。平成25年11月10日の「川口の日」に川口総合文化センター・リリアにて市制施行80周年を記念して、川口市から組合員並びに従業員の方々が表彰されました。

合同ブロック会議

11月22日(金)



工業団地内4ブロック合同の講演会は、株式会社ダイベロップメント代表取締役の片貝竜也氏を講師として招き、「従業員のモチベーションアップ」をテーマに講演を行いました。組合員並びに従業員の53名が聴講し、「社員のモチベーション向上の仕組みとその方法について」研修しました。

工業団地内の秋季合同清掃

10月8日(火)



工業団地内の道路や公園の清掃を組合員らが所属する各ブロックに分かれ、「公園緑地」や「ゆうゆう歩道」を中心に、道端に落ちているごみなどを拾い、雑草や蔓等を取り除きました。ごみ袋70袋分を収集しました。

組合研修旅行

10月20日(日)～1泊2日



東日本震災で大きな被害を及ぼした「津波」のメカニズムについて東海大学海洋科学博物館を訪問しました。津波実験水槽での実演により、津波の仕組みや被害などについて理解を深めました。また、沼津港大型展望水門「びゅうお」にて、建設経緯等、静岡県や沼津市の「防災」に関する取り組みなどを防災ボランティアからの説明などで学びました。



川口新郷工業団地協同組合



中国・大連視察(外国人研修生受入研究会)

11月28日(木)～30日(土)



重・軽工業が多い大連市の研修生派遣団体及び日本語学校を視察しました。また、大連奔騰国際経済技術合作有限公司の門啓明総経理と協定書の調印を行いました。今回は技能実習生受入れの為、鑄造、鍛造、溶接、製本関係の計45人の個人口頭面接、実技面接を実施しました。

青年研究会会長挨拶



青年研究会会長
山口 基永

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お元気で新年を迎えられたことと存じます。また、青年研究会の活動に對しまして、組合員の皆様をはじめ多くの方々の多大なるお力添えをいただいておりますこと、会員一同を代表いたしまして心より感謝申し上げます。

昨年、私は「自家発電及び新電源導入検討会議」に続き「太陽光発電プロジェクトチーム」に青年研究会の代表として参加させていただき、理事長をはじめ組合の検討会議メンバーの熱い思いと共に、未来の「SIP川口」が目指す新しい価値創造へのビジョンの一端を垣間見ることができ、何事にも代えがたい経験をさせていただきました。

さて、青年研究会は、引き続き組合運営の生命線といっても過言ではない、新電源導入のための調査研究のお手伝いをさらに加速させ、組合各企業様と共に、「SIP川口」の更なる発展の一端となるよう微力ではありますが精一杯頑張る所存です。また、組合諸行事、他団体交流や各種研修会等に積極的に参加し会員一人一人の資質の向上と、相互の親睦を図ってまいりますので、今年一年間ご指導ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

結びに皆様のご健康とご多幸をご祈念いたします。新年の挨拶とさせていただきます。

謹んでお悔やみ 申し上げます (岡村市長のご逝去)

当組合の顧問 岡村幸四郎川口市長は、平成二十五年十二月二十五日 午前四時四十五分、急逝されました。

岡村市長は、平成九年五月に第十二代川口市長として就任以来、本年十二月までの五期、十六年七ヶ月にわたり市民福祉の向上と川口市発展のために、心血を注がれました。

最近では、一昨年、鳩ヶ谷市との合併を行い、昨年は両市の一体感を醸成するため「日光御成道まつり」を盛大に開催いたしました。

また、川口市の三大プロジェクト、赤山歴史自然公園、火葬施設の道筋をつけ、市立高等学校三校の再編、統合、川口市庁舎の建替えに目鼻をつけたこと等行政課題を着々と進め、「絶対にやり遂げる」との強い覚悟をもって頑張っていたいただき、今年十一月の「川口の日」は、市制施行八十周年記念式典を開催、歴史の認識とともに、あらためて後世に伝える役割を果たしていただきました。

また、当工業団地協同組合におきましても、「ものづくり」の場と暮らしの空間を隔てる緩衝緑地帯「ゆうゆう歩道」の整備等、環境保全にお力添えをいただきました。

川口市に大きな功績を残されましたが、たゆまぬ情熱と、さらなる課題に挑戦する政治家として、ご本人はまだまだ志し中途だったと思います。

私たち一同も痛恨の極み、無念の気持ちでいっぱいです。

この岡村市長の意志を継ぎ、私たちも「ものづくり」から「人づくり」「まちづくり」へと貢献していきたいと思っております。この度、中小企業のまちとして、中小企業者の事業活動の活性化の推進に尽力された功績に敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

事務局

平成25年6月17日より事務局の一員となりました。



課長 総務
古屋 恭平

若さと行動力で頑張っております。よろしくお祈り致します。



※表紙の絵

「断崖の白い街」P100号

ギリシャ・サントリーニ島を船上から取材しました。折しも2001年9月11日この時間この瞬間に地球の裏側では、全世界に衝撃を与えたアメリカ同時多発テロ勃発……。

TV中継を見て、その光景に慄然とした。

森 敬介 (一水会会員 川口市在住 (株)モリチュウ)